



先日の臨時休業では、大変ご迷惑をおかけしました。台風シーズンは続きますので、今後も急なお願いがあるかもしれませんがよろしくお願ひいたします。また、子どもにも天気予報に関心を向けさせたいです。

2年ぶりの陸上記録会

～スローガン「本気」～

昨年度の陸上記録会は中止でした。6年生は涙を流し、「自分達だけでも陸上記録会をしたい」と言って種小だけの記録会をしました。5年生のときにも出場した子ども達でしたから、6年生になって出られないことの悔しさはどんなに大きかったことでしょうか。今年は、どの学年も出場した経験がありません。他校の選手と競い合うという経験がない子ども達です。緊張、不安、・・・とどんな気持ちを味わうことができるのか、2年ぶりの機会となりました。



壮行式で話したこと 「一人ぼっちでやり抜く」ということ

・・・(中略)・・・ 6年生にとっても、どの人にとっても、他の学校の選手と競うのは初めての大会になります。きっと緊張するでしょう。

集合場所には自分で行かなければなりません。時間までに自分で名前を伝えて受付しないと失格になります。スタート位置に行ったらまさに一人です。隣の人がとても速い人に見えるかもしれません。そういう雰囲気の中、スターティングブロックの調整、スタートの試し、体が冷えないように屈伸運動、・・・と、今まで教わったことを自分で行います。誰も、そばで教えてくれません。“一人ぼっち”です。

そして、スタートまで、じっと一人で待ちます。心を落ち着けられるか、ぼやーっと過ごすか、きょろきょろしているうちにスタートになるか。

精一杯やって順位が遅いのは仕方ありませんが、このような、調整や気持ちの準備が悪くて力を出せなかったなんていったら、応援団に申し訳ないです。「自分が選手になったということは、同時に選手になれなかった人がいるということ」を思わなければなりません。「出られない自分の分もがんばってほしい。」とと思っている人がこの中にいるのです。さらに、今、目の前にいる小さい子達が、みなさんが、がんばって練習してきたことを知っていて、「すごいなあ」という目で見えています。

だから、精一杯の力を出さなければなりません。精一杯の力を出すために、一人で責任をもってやり抜かなければなりません。「一人ぼっちでやり抜く」ことができるように強くならなければなりません。

「本気」 ところで見えたものは

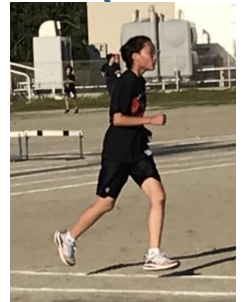


子ども達は、陸上の練習を通して、いろいろなものを見て、気づき、考えたことでしょう。「練習をいやだなあ」と思っている自分の弱さに気がついたり、一方で、友達や下級生が一生懸命走っているところを見たり、体力づくりの子達が何度も何度もがんばって走っていて偉いなあと思ったり、・・・。

選手や応援団には、どんなものが見えたか、どんなことを感じたのか。「本気」でやり切った人だけが見えるもの、気づくことがあるはずです。目を見開くだけではなく、心を開かなければ見えないものです。心は一生懸命がんばることで開くものです。



「バトンが渡る！」という瞬間に、そして、相手校から詰められながらも最後の力を振り絞ってゴールに向かうアンカーの姿に、きつくても黙々と走り続ける選手達の練習の様子が浮かんで見えました。



応援団は、途中まで選手達と一緒に種目別練習をしてきた子ども達です。ですから、どんな練習をしたかも知っています。そして、体力づくりに移っても、何度も何度も走った子ども達です。



大会で声援を送る応援団の姿に、体力づくりで走りながら、「まだ走れます！」と言ってくる汗だくな顔が重なって見えました。次に、校庭で練習する選手達に向かって金網の外から応援練習をする一生懸命な顔が浮かんで見えました。みんながんばった子ども達です。



子ども達には何が見えたのでしょうか。この見えるものが増えていくことが心の成長・大人へ一歩近づくことだと思っています。陸上は速さを競うだけでなく、このような成長の機会として、『全員取り組み』を続けています。



練習で毎日目にした校庭のライン。でも、このラインは、なぜ毎日あったのか。誰かが引いてくださっていたはず（実は英雄先生や春樹先生たち）。こんなことに気がつくことも「見えるようになること」の1つ、かしくなること。“見える子”を増やしていきたいです。